

氏名(国籍)	カストロ ヴァスケス ヘナロ (メキシコ)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	博甲第2701号		
学位授与年月日	平成13年3月23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	体育科学研究科		
学位論文題目	Fundamentals for an Educational Intervention based on a Quantitative and Qualitative Approach to Masculine Identity and Condom Use (男性としてのアンデンティティとコンドーム使用に関する質的・量的アプローチによる教育的介入のための基礎研究)		
主査	筑波大学教授	保健学博士	宗像恒次
副査	筑波大学助教授	教育学博士	清水論
副査	筑波大学助教授	博士(体育科学)	中込四郎
副査	筑波大学外国人教師	Ph. D.	John H. Kerr
副査	筑波大学助教授	Ph. D.	金沢吉展

### 論文の内容の要旨

本研究の目的では、HIV/AIDSを含む性感染症予防としてのコンドーム使用と男性のジェンダーアイデンティティの関連を量的および質的に検討し、また高等学校におけるジェンダーロールの変容に焦点をおいたセクシュアリティ教育の介入研究を行ったものである。『研究1』量的研究の方法として態度尺度とSD法によるアプローチを採用した。その結果、コンドームに関する意識と男性性役割に関する態度の関連性が明らかになった。男性性役割に対して肯定的な態度を持っている男子高校生がコンドームに関する意識は非好意的な意識をあらわしやすい傾向が見られた ( $N=300$ ,  $r=-.423$ ,  $p<.001$ )。次に『研究2』質的アプローチにおいては、男子高校生51人を対象者として、1人30分3セッションの半構造的面接を行った。その結果から、コンドームを携帯することでジェンダーの二重規範が存在していること、コンドーム使用に対する交渉がほとんど行われていないこと、ジェンダー関係が家父長制度の中で構成されていること、眠れる子を起すものであるという考えに基づいた性教育が現在でも行われていること、ペニスを挿入することと男性の射精によって異性愛者のセックスが成立すること、愛についてのディスコース (discourse) が性交の正当化のために用いられること、コンドームの愛の象徴あるいは男性同一性を高めるものと見なすこと、コンドームの携帯や性について話す女性を乱交性があると捉えることが明らかになった。『研究3』これまでの量的と質的アプローチに基づいて、セクシュアリティ教育における介入プログラムを作成した。介入の目的は、1) 沈黙やジェンダーの文化が持つ二重規範に対峙する教育介入を行うこと。2) 性文化の中に埋め込まれた性、愛、危険、避妊といった考えを脱構成することである。教育プログラムは男女高校生40人が参加し4セッション(一回50分)で構成した。介入の結果は、男女間で性に関する問題が活発に議論されたこと、性的隠語と婉曲的な表現で、教師と生徒のコミュニケーションを支えたこと、女性の知的エンパワーメントについて考えられたこと、「愛とは相手を自分と同じくらい大事に思い、自分の一部として責任を持つと思うこと。しかし、そのような愛が存在すれば、危険なセックスを試みないはず。“好き”や“愛”も終わりがくることがあるのだから、子づくりのためでなければ危険は回避すべきだ」というような結論を得られたことであった。

今後の展望としては、日本の女子高校生の性的な実践や信念に関して詳細に理解するために、彼女らの性感染症やHIV、性的リスク、性的な関係とその責任および安全性の効果的な認知様式を明確にする研究が必要である。さらに、本研究で明らかになった研究対象者である若者たちの実際のセックスのあり方と性的アンデンティティとその意味の世代格差を検討するために、本研究の対象者よりも上の世代との比較研究に着手することが必要である。また民族、社会階層、ジェンダーの差異が教育介入の結果に与える可能性を検討する上で、教育介入に関する研究も必要である。そして保健の教育プログラムが与える若者の性的危険行動もしくは安全行動への影響を明確にすること、またどのような要因が性的な行動変容を促したり性行動を束縛したりするのかを検討し性教育を構築していく上で教師の性文化に関する研究が必要である。

## 審査の結果の要旨

審査において、主に次のことについて討議された。

- (1) 統計処理についての質疑応答
- (2) 質的分析法のコンピュータソフト Ethnograph Program がどのような手続きで分析されるものかについて質疑応答
- (3) いくつかの性教育介入の結果の比較分析法の必要性についての質疑応答

今後に残された課題はいくつかあるが、本論文におけるセクシュアリティ教育の介入の方法には独創性が高いこと、また言語的障壁があるにも関わらず、質的アプローチを実施し、興味深い結果が得られた労作であると評価された。

よって、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。